

臓器病態学 I

Organ Pathology I

単位数：5単位

○織田禎二 教授：循環器・呼吸器外科学 田邊一明 教授：内科学第四
遠藤昭博 准教授：循環器内科 伊藤孝史 准教授：腎臓内科
林田健志 講師：形成外科

1. 科目の教育方針

臓器病態学 I の講義では循環器系（心・腎・血管系）の本来の役割を理解するための生理学・生化学について広い視点から講義し、心不全、腎不全、高血圧、動脈硬化といった病態のためにどのような不都合な問題が生じるのかを学ぶ。特に重要臓器として脳、心、腎の臓器障害について臓器連関を含め病態生理を理解し、これらの病態を解決するための手段としての内科治療、外科治療、予防医学的治療について臨床症例を提示しながら学習する。最終的には未来医学のあるべき姿に関する議論にまで発展させたいと考えている。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 心、腎、血管系の本来の役割を理解する。
- 2) 腎不全の進行機序を腎生理学、病態学の立場から理解する。
- 3) 重要臓器におこった臓器障害を正しく理解し、それに対して正しい解決法を見いだせる。
- 4) 未来の医学の方向性に関して議論できる知識を習得し、解決策を提起できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 循環器系疾患の個々の病態を説明でき、正しい治療選択ができる。
- 2) 腎不全の進行およびその治療法を説明できる。
- 3) 近年の生活習慣の変化による健康への影響を説明し、その是正策を提案できる。
- 4) 病気予防の方策について説明し、医療現場で実践できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Braunwald' s Heart Disease. Saunders (2008)
- 2) 急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)

https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2017/06/JCS2017_tsutsui_h.pdf
(日本循環器学会HP)

- 3) 重症心不全に対する植込型補助人工心臓治療ガイドライン
http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2013_kyo_h.pdf (日本循環器学会HP)
- 4) 下肢アテローム硬化性閉塞性動脈疾患に対する診療ガイドライン(日本血管外科学会雑誌 第24巻 別冊)
- 5) 血管機能の非侵襲的評価法に関するガイドライン(日本循環器学会HP)
- 6) 末梢閉塞性動脈疾患の治療ガイドライン(日本循環器学会HP)

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	不全心の形態変化を外科学の視点より捉え、また心不全に対する外科治療の歴史を概括した上で、補助人工心臓を含めた外科治療法について解説する。心不全・外科1	織田禎二
2	心不全の診断と治療に対する考え方について解説する。また、これからの循環器診療の視点から心不全の予防について解説する。心不全・内科2	田邊一明
3	血管疾患の病態・診断について解説し、治療および予防について概説する。血管疾患1	林田健志
4	腎不全の主要な原疾患、腎不全保存期の合併症および腎代替療法について講義し、腎不全進行の病態を理解する。腎不全1	伊藤孝史
5	虚血性心疾患を中心とする動脈硬化性疾患の診断と治療、および二次予防について解説する。動脈硬化1	遠藤昭博
6	心不全・外科2	織田禎二
7	心不全・内科2	田邊一明
8	形態学からみた動脈、静脈、リンパ管の機能について解説する。血管疾患2	林田健志
9	腎不全2	伊藤孝史
10	動脈硬化2	遠藤昭博
11	心不全・外科3	織田禎二
12	心不全・内科3	田邊一明
13	血管内皮細胞などから分泌されるサイトカインの機能およびそれらを用いた治療について理解する。血管疾患3	林田健志
14	腎不全3	伊藤孝史
15	動脈硬化3	遠藤昭博